

平成29年度一般財団法人富山勤労総合福祉センター事業計画

1 運営方針

日本経済は、緩やかな回復傾向が見られるものの、可処分所得の伸び悩み等から個人消費の低迷が長期化しており先行きは不透明な状況です。

このことから、当財団を取り巻く経営環境は今後とも厳しい状況が続くと予想されますが、各施設においては独立採算制を基本に、徹底したコストの削減を行う一方、それぞれの施設の特色を生かした魅力ある事業の展開や真心のこもったサービスを提供することにより、北陸新幹線の開業効果を最大限生かし、集客の向上に努めてまいります。

(1) 呉羽ハイツ

昭和47年5月のオープン以来、本年5月に満45年を経過し、これまで県内外のお客様のご理解により、延775万人のご利用を頂きました。一昨年の北陸新幹線開業当時の顕著な効果は見られないものの、当施設においても、着実に県外客や外国人利用客が増加しています。

このような中であって、集客力、収益力を高め安定経営を目指すためには、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、魅力ある施設を作り上げていくことが必要です。そのため、引き続き真心のこもったサービスや美味しい料理の提供に努めるとともに、利用客確保のため、積極的な営業活動を進めてまいります。

また、今年度は、施設の安全性を高めるため、耐震改修に向けた設計業務を進めてまいります。

(2) とやま自遊館

平成27年度に策定した「とやま自遊館経営改善計画」の目標達成に向け、下記事業等を行い、新たな顧客の確保等による売上の増と経費の節減に努めます。

- ①自遊館20周年に関連した企画等による事業展開（20周年記念祝袋販売、レストランスタンプラリー、お花見ナイトクルーズの増便 等）
- ②施設・設備の充実を図り利用者に対して快適な空間を提供（外来者トイレにウォシュレット導入等）
- ③スマートフォンに対応したホームページの強化等、積極的な広告・宣伝活動の実施
- ④レストランメニューの刷新等、飲食関係での誘客対策の実施
- ⑤リフレッシュプラザの会員増加策（マラソン需要掘り起こし、おためしプラン実施等）
- ⑥経費削減努力の継続（光熱水費等）

2 重点実施事項

(1) 呉羽ハイツ

① 施設設備の改修等

- ア. 本館耐震改修に向けた設計業務の実施
- イ. 火災受信機の更新
- ウ. 館内トイレの洋式化工事の実施

② 利用率の向上

- ア. 県内外の旅行業者及びネット旅行サイト会社への売り込みを積極的に行う。
- イ. 県内企業及び各種団体等の渉外活動を一層強化し誘客に努める。
- ウ. 好評の合宿プランについても積極的な誘致活動を展開する。
- エ. 県外からの宿泊者に対して、ご当地グルメ料理を提供し更なる誘客に努める。

③ 利用者へのサービスの向上

- ア. 28年末にリニューアルオープンしたロビー&喫茶コーナーの一層の利活用を図る。
- イ. 法要利用について、積極的かつきめ細やかな渉外活動を進め、減少傾向に歯止めをかける。
- ウ. お盆や年末年始に各種イベント(夏祭り・年越しそば・新年餅つき大会等)を実施する。
- エ. 外国人利用者及び高齢者が利用しやすいよう、館内トイレの洋式化を完了する。

④ 職員研修

- ア. 28年度に引き続きフロント・応接係職員に対する研修を実施し、利用者へのサービスの向上を図る。
- イ. 調理師の技術向上のため、現場研修をはじめ各種調理師研修会に参加する。
- ウ. 定期的に消防訓練を実施し、職員の消防技術や防火意識を向上させ安全な施設づくりを行う。
- エ. 利用客のバス送迎が年々増加しており、安全運転教育を強化し安全運行に努める。

(2) とやま自遊館

① 利用増に向けた誘客・広報活動

- ア. 自遊館20周年に関連した企画等による事業展開を行い誘客につなげる。(20周年記念祝袋販売、レストランスタンプラリー、お花見ナイトクルーズの増便 等)
- イ. レストランのメニューを刷新し、顧客のニーズに合った料理等を提供する。
- ウ. オープン以来開設しているビアホールについては、新たなイベントなど魅力的な企画を実施し、更なる誘客に努める。
- エ. 景気の影響が少ない祝事、法要宴会等の受注に努める。特に法要については平日

の割引サービスを行うなど、受注拡大のためセールスを行う。

オ ホームページをスマートフォン対応へ改修し、見やすい画面構成にすることにより、自遊館の良さを積極的にアピールするとともに、インターネットによる宿泊予約の推進を図り客室稼働率の向上に努める。

カ 新聞、ラジオ、専門雑誌等の媒体を利用した広告を行うとともに、季刊誌（ちゃお）の充実を図るなどの広報活動を展開する。

② おもてなしの心が実感できるサービスの提供

ア 接客研修等を通じ、お客様本位のサービスに徹する職員意識の高揚を図る。また、調理師の技術向上のため、施設内外での調理研修に参加させる。

イ 施設・設備の充実を図り利用者に対して快適な空間を提供する。（外来者トイレにウォシュレット導入等）

ウ 富山の食材を使った越中料理や自遊館の特色である和洋折衷料理などお客様のニーズに合った多彩なメニューを企画・提供する。

エ シーズン割引プラン、宴会付割引プランなど利用しやすい宿泊プランを提供する。

③ 健康増進に係る事業の実施

ア 県内医療機関と連携した健康づくりサポート（運動療法、メディカルフィットネス、リハビリ支援等）を実施するとともに、生活習慣病の防止・改善や介護予防等を目的とした運動プログラムの提供を行う。

イ 「おためしプラン」等の実施を通じて、新たな利用者の獲得を図る。

ウ 「とやまマラソン」を契機としたマラソン需要の掘り起こしを行い、ニーズに合った企画を提供する。

④ 経営改善への取り組み

ア 29年度の経営改善計画目標の達成に向けて、しっかりとした進行管理を行う。

イ 引き続き光熱水費や営業業務委託料等、経費の削減を図る。

⑤ 職業教育、職業相談等の提供

ア ヤングジョブとやま

若者の就職に関する情報提供やカウンセリング、セミナー、トレーニング、職場見学、職場体験等を行う。

イ とやまシニア専門人材バンク

就労を希望する専門的知識・技術等を有する高齢者を対象とする人材バンクを設置し、高齢者の就業と県内企業の人材確保を総合的に支援する。

ウ 富山県地域人材育成協議会

「ものづくり」、「介護・福祉」「建設」「観光」の人手不足分野において、コーディネータによる人材の掘り起こしや、企業実習等による人材育成、就業サポーターによる就労支援を一体的に実施する。

新 エ 富山県インターンシップ推進センター

4月に大学生等のインターンシップを推進するセンターを設置し、若者の就業支援を行う「ヤングジョブとやま」と連携しながら、学生とインターンシップ受入企業とのマッチングや首都圏等でのインターンシップイベントへのブース出展などを実施する。

3 利用人員等目標

(1) 呉羽ハイツ

平成 29 年度は、利用人員 148,400 人（前年目標対比 98.1%）、営業収入 7 億 4,277 万円（前年目標対比 97.4%）を目標とする。

（単位：人）

区 分	平成 29 年度 目標人員 a	平成 28 年度 目標人員 b（見込）		比較 a-b
会議・研修	17,000	16,600	(19,000)	400
宿 泊	28,000	27,800	(29,100)	200
宴 会	43,100	45,300	(44,200)	▲2,200
休 憩	15,000	17,000	(14,300)	▲2,000
レストラン	13,000	13,000	(11,800)	0
喫茶・売店	29,000	28,000	(28,000)	1,000
そ の 他	3,300	3,600	(3,700)	▲300
合 計	148,400	151,300	(150,100)	▲2,900

(2) とやま自遊館

平成 29 年度は、利用人員 325,000 人（前年目標対比 100.3%）、営業収入 6 億 8,207 万円（前年目標対比 100.6%）を目標とする。

（単位：人）

区 分	平成 29 年度 目標人員 a	平成 28 年度 目標人員 b（見込）		比較 a-b
会議・研修	12,300	12,300	(10,600)	0
宿 泊	12,200	12,200	(12,000)	0
宴 会	28,300	28,300	(23,900)	0
レストラン	83,000	83,000	(75,900)	0
ホ ー ル	46,000	46,000	(45,900)	0
リフレッシュラザ	119,000	117,800	(118,000)	1,200
マガジヨとやま	22,000	22,000	(20,100)	0
シニア人材バンク	2,200	2,200	(2,200)	0
合 計	325,000	323,800	(308,600)	1,200